

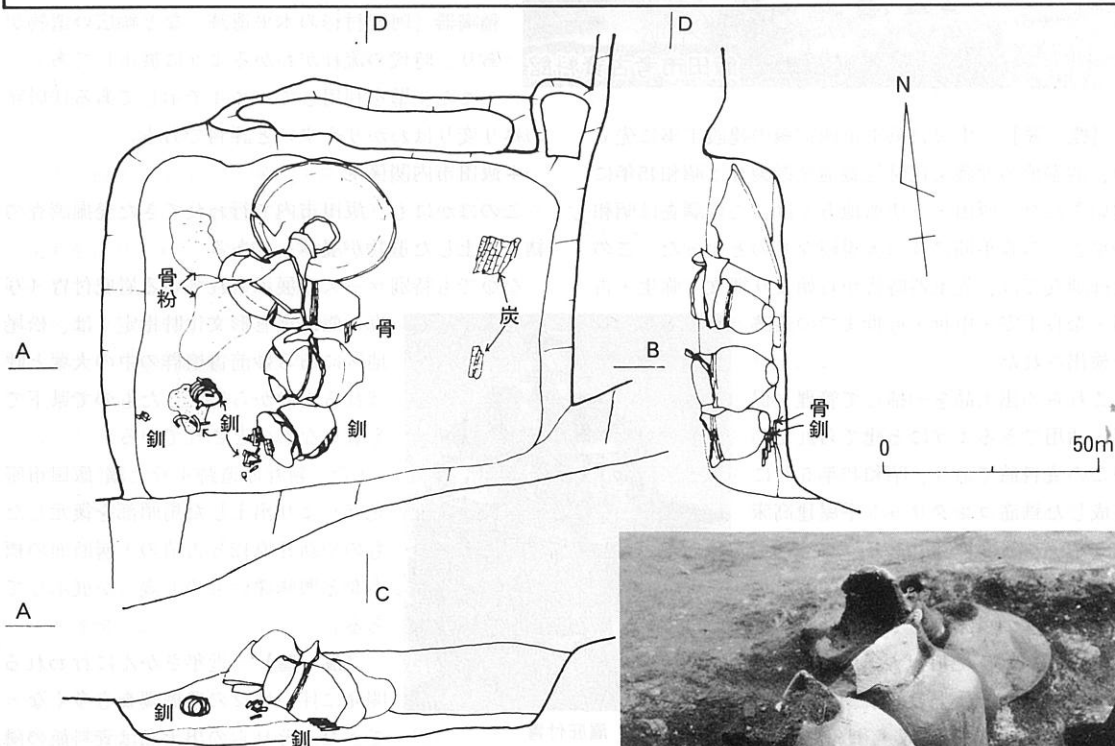
長野県埋蔵文化財ニュース

No. 15

1985. 10. 28

(財)長野県埋蔵文化財センター

松塩坑調査事務所
〒399-07 塩尻市広丘高出1977
TEL 0263-54-2150



15点の銅釧が出土した

かみすぐじ 上直路遺跡

佐久市岩村田の枇杷坂遺跡群上直路遺跡は、佐久高校グラウンドの北側に隣接している。民間の店舗が建設されることにより緊急発掘調査が昭和60年5月27日から6月5日まで行われた。

検出遺構は、住居址2棟、溝2基であった。釧は1号住より約15点（破損して接合関係が未把握のため）出土した。弥生時代後期の南北10m、東西7mを測る大形の住居址東壁中程のベッド状遺構に隣接する南北推定1.6m、東西1.3mの長方形を呈する土壌より検出された。当初は、何らかの意図で供献されたものと考えたが、釧の出土状況及び多くの人骨片の出土



佐久市教育委員会 林 幸彦

より、埋葬されたと仮定すれば、東側の5点の釧内側の2本の骨は左腕の尺骨または桡骨にあたる。他に左上腕骨、右肩部と思われる人骨が出土している。人骨はいずれもそれほど強くない火を受けていて小さなひびが生じている。

釧は径6cm、巾0.6~0.8cm、厚さ1.6mmを測り円形を呈する。この人骨の胸部付近には高杯1、甕3が正位に置かれていた。また、これらの土器上部に接して炭化材がみられた。その他、住居址内からは、壺・甕・高杯・杯・甕・手づくねなどの土器が30個体以上出土している。

埋蔵文化財施設紹介



飯田市考古資料館

【概要】 中央自動車道西宮線の建設工事に先立つ、通過地の埋蔵文化財包蔵地発掘調査は昭和45年に開始された。飯田・下伊那地方では、この調査は昭和49年までの6年間に及ぶ大規模なものとなった。この発掘調査では、先土器時代から始まり縄文・弥生・古墳・奈良平安・中世・近世までの遺跡が検出された。

これらの出土品を一括して管理・保存・活用できるようにと建てられたのがこの資料館であり、昭和49年5月に完成した鉄筋コンクリート平屋建高床式寺院造、総面積396㎡の建物である。

この資料館の建つ上川路を含めた竜丘地区には、多数の古墳が残存しており「塚原古墳群」と呼ばれる地域は、資料館の北方の段丘上であり、県史跡に指定されている馬背塚・御猿堂古墳

(共に前方後円墳)や市史跡に指定されている双子塚(前方後円墳)も、歩いて見学できる距離にある。

また、資料館は開善寺の用地内に建てられている。この開善寺は、信濃守護職小笠原貞宗が、宋より渡来した大鑑禪師を迎え開山した禅宗の根本道場であり、古くは、「開禅寺」と書かれた。この寺には、重要文化財に指定されている「山門」、同じく重要文化財で御猿堂古墳出土の画文帯四仏四獣鏡並びに重要美術品の鐘楼などの文化財や苔むした境内の庭、4月から5月にかけて咲く200株の牡丹、それに続いて花開く藤と四季を通じて趣き深い所である。

来館者は、地元の小・中学校の社会見学・遠足や夏休みの一研究の児童・生徒と名古屋・中京方面や大阪・近畿方面の旅行者が立ち寄ることが多い。

【展示】 この資料館には、ふたつの展示室がある。第一展示室は、前述した中央道関係の遺物を中心にし、そのほか飯田市内で行われた発掘調査で出土した遺物を展示、第二展示室は、第一展示室を補足する

形で公開されている。

中央自動車道西宮線関係

この事業によって飯田・下伊那地方で発掘調査が行われた遺跡は50か所以上にのぼり、先土器時代の石器(飯田市山本石子原遺跡)、縄文中期の吊手形土器(高森町新切遺跡)、古墳時代後期の須恵器(飯田市鼎天伯A遺跡)、平安時代・中世末期灰釉陶器(阿智村杉の木平遺跡)など幅広い遺物があり、時代の流れがわかるように展示してある。

また、壁を利用してパネルで示してある住居跡の移り変りはわかりやすいと評判である。

飯田市内関係

このほかにも、飯田市内で行われてきた発掘調査の結果出土した遺物が展示してある。

なかでも特別ケースに展示されている眉庇付冑(写

真・飯田市有形文化財指定)は、松尾地区にある妙前古墳群の中の大塚と呼ばれる古墳から出土したもので県下でも貴重なものとされている。

また、新井原遺跡4号土壇(飯田市座光寺)より出土した馬頭部を復元したものや新井原12号古墳の土層断面の標本など興味深いものも幾つか展示してある。

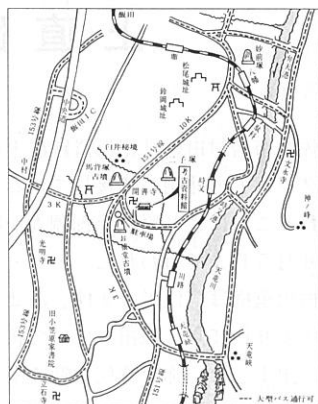
【展望】 近年さかんに行われる開発に伴い種々の発掘調査も多くなってきた。それらの出土品は資料館の隣



眉庇付冑

の収蔵庫に保管してある。

殊に昭和51年より始まった座光寺バイパス建設に伴う恒川遺跡発掘調査は、下伊那の文化史にとってかなり貴重な遺跡であるだけでなく、県下古代史解明にも大きな役割を果たすことがわかったため、整理作業に続く報告書の発行が現在着々と進行中であり、その完成をまって特別展を計画している。



所在地 飯田市上川路1004-1 ☎0265-26-9009
休館日 月曜日・祝祭日の翌日・年末年始
入館料 小・中学生 70円 高校生以上100円

発掘調査紹介

川上村 三 沢 遺 跡

南佐久郡誌刊行会
考古常任編纂委員

島田 恵子

南佐久郡川上村三沢遺跡は、野辺山矢出川遺跡に近接した東方の山際に位置し、豆腐石（1,786m）付近から流下してくる支流の渡歩地点から、西方の道に沿った標高1300～1350mを測る地区に所在している。

発掘調査はゴルフ場造成に伴い、川上村教委より委託を受けた佐久考古学会が主体となっており、5月8日～7月30日にわたって緊急調査を実施した。

第Ⅰ・Ⅱ地区の2か所を調査し、第Ⅰ地区は縄文時代中期初頭（九兵衛尾根式）の墓域が10m×20mの範囲にわたって顕現した。それは、土壌墓7基を中心に五角形を呈した柱状節理の50×20cmを測る立石、拳大～頭大の礫および土器片、水晶・黒曜石・チャート等の剥片、石匙・石鏃等を散在させた祭祀の場が主な遺構である。該期の遺跡範囲は竪穴住居址が浅いためにその後の遺構に破壊され、その実体は解明されていない。本遺跡も墓域の周辺一帯に試掘調査を入れたが、住居址等の存在は皆無であった。緑地帯として残る上方の林の中に集落が予想される。

第Ⅱ地区は先土器時代の遺跡で、16,000～17,000年に比定される。礫群・配石遺構および石器類が検出された。石器類の出土層位は、Ⅲ層に分けられる森林黒墨土の最下部（地表下50cm）よりⅣ～Ⅴ層のローム層（50cm）内に包含されている。茂呂系ナイフ形石器（相模野フェイズⅡB期）を主体とし、石核・剥片等で石質の素材はバラエティに富み、チャート・黒曜石・頁岩・水晶・硬砂岩・シルト岩・流紋岩・珪板岩・輝緑凝灰岩等でそれぞれの石質に分割されたブロックを呈した状態で出土した。特に水晶が多量であったことは産出地を有す川上村ならではの特徴といえよう。



先土器時代遺構調査区全景



礫群及び配石遺構

また、礫群・配石遺構はセットになって、ローム下50cmより検出された。直径16mの範囲を円形状に配置し、6か所のブロックを形成していた。礫は1ブロック20～30個、配石は5～10個を数えるセットを有しており、肉眼では礫群の火熱を受けている状態は観察できなかった。なお、礫群下10cmまで石器が包含されていた。また、礫群・配石が存在した地表面は固く、当時の生活面である様相をよく示していた。

全国的に著名な矢出川・柏垂遺跡群は農業の深耕によりほとんど破壊され、発掘調査例も少ない。こうした現状の中で今回調査した三沢遺跡は森林地帯の中にあって、人為的变化のほとんどなされていない地区で遺構・遺物の遺存状態は極めて良好であり、今後の研究発展における貴重な資料となろう。

また、本調査を実施した一帯は3mの盛土がなされ保護される。

塩尻市 向陽台 遺跡

塩尻市教育委員会 小林 康男

向陽台遺跡は、塩尻市浅敷に所在し、筑摩山地山麓に発達する一丘陵上の突端に位置する。標高730mをはかる遺跡から西側に開けた眺望はすばらしく、目と鼻の先に塩尻の市街地が臨まれる。

周辺には、山ノ神・竜神・竜神平・北原・堂の前・福沢等数多くの遺跡があり、松本市の中でも最も遺跡が稠密に分布する地域である。この山麓地域を、中央道長野線が横断することになり、現在、本線内はもとより付随するバイパス・工業団地等さまざまな事業が進行しつつある。

塩尻インターから国道19・20号線を結ぶバイパス団地内にも幾つかの遺跡があり、今年度から発掘調査を実施しているが、向陽台遺跡もその一つである。

4月23日から6月10日まで3,150㎡にわたって実施した発掘調査によって、縄文時代早期押型文期の住居



押型文期の住居址

址4、前期中越期の住居址4、中期の小竪穴13、弥生時代後期箱清水期の住居址6と同時期と推定される方形周溝墓1が発見された。

押型文期に属する4軒の住居は、いずれも台地末端に位置し、互いに隣接して営まれている。1・2・10号の3軒は、径5.1～6.3mの円形を呈し、該期の住居としては大形に属するが、3号は径9mを測る円形で、特に大形であった。おそらく、この時期の住居としては最大級の規模を有するものと思われる。堀り込みは傾斜をなす播鉢状を呈し、柱穴は浅く小さなものが不規則に配列し、炉址らしいものは検出されていない。これらの住居址からは、多量の沢式土器が多く、無文土器を伴って出土しており、住居研究のみならず土器の研究にも好資料となろう。

縄文前期中越式土器を出土した4軒の住居は、台地の一番高い地域に営まれている。ともに隅丸方形を呈し、4本主柱、地床炉を有するものである。住居址覆土からは完形・半完形の多くの土器と、黒曜石を主体とした剥片石器の出土が目立ち、松本平では、従来この時期の資料に乏しかっただけにその空白部分を埋めるものといえる。

弥生時代後期箱清水式期の住居址群は、早期押型文期の住居群とわずかなズレをみせながら台地末端を中心とした地区に展開している。住居形態は、隅丸長方形を呈し、4本主柱で、奥寄り主柱穴中央部ないしはやや内側に炉が設けられるものが多い。炉は、埋襲炉4、石囲埋襲炉2で、石囲をもたない埋襲のみのものが主体を占める。これらの住居群から80mほど離れた台地上方に、一辺が11.3×11.2mを測るほぼ正方形で、南側に陸橋をもつ方形周溝墓が1基発見されている。時期を決定できる資料の出土がないため明確さを欠くが、住居址と同時期のものとして扱えられれば、居住地と墓地との関連性が注目される。

向陽台遺跡の今回の調査の成果は、バイパス道路用地といういわば線的な範囲で得られたものであった。

将来、このバイパス道路の両側地域の調査により、遺跡の全貌を把握することが望まれる。

中川村 ^{おお} ^{くさ} 大草城跡

調査団長 友野 良一

大草城は上伊那郡中川村大草沖田部落に所在する。ここは天竜川の古い段丘上で、標高は古城（本丸）の位置では604.3mを測る。南と北に伊那山脈より流れ出る深沢川と、小河川による自然の堀があり、郭と郭との間は人工的な空堀に囲まれ、東西約300m、南北150mにわたる自然の地形を利用した平山城である。

この大草城は、南北朝時代に下伊那郡大鹿村大河原に移住された宗良親王に忠誠を尽した香坂高宗の居城と伝えられる城である。今回中川村が大草城跡を公園化するにあたり、対象地域となった古城（本丸）の北側の外城（二の丸）一帯を5月22日から8月2日まで、教育委員会が主体となって発掘調査した。

調査は外城のほぼ中央と推定される部分に、O・P・Q・R・S、1～13とT・Uの2～8の区域内に2×2mのグリットを設定し、280㎡を発掘した。以下、その概要を述べてみよう。

1 郭について：現在のところ、初期の城郭については明らかにすることはできないが、天正19年の検地に古城（本丸）とされている郭は、現在の連郭式城郭になる以前の古い郭ではないかと考えられる。古城の西側に一段低い場所があり、これを「古城腰」と呼んでいて、約3反歩（30アール）の郭がある。この場所が古城に付属した大草城初期の郭と考えられている。それは、この古城腰から、13世紀代の中国製青磁（画花文）碗の破片をはじめ、14～15世紀代の陶器が多く出土している事実からも類推できる。

なお、今回の調査は外城（二の丸）だけで、他の古城・古城腰は現況保存を図ることになった。



遺構出土状況

2 二の丸（外城）：発掘面積は280㎡、郭のほぼ中心部に南北26、東西10～12mと、郭の西側の一部にそれぞれトレンチを設定した。

ここは長期間耕作されていたため、小石混りのやや粘質の土壌であるが、耕土が浅く10～15cm前後で、新旧の遺物が混在して出土した。しかし調査を進めると耕土下は意外と深耕が及ばず、約20m内外の層序から遺構の存在を確認することができた。

この層位からは、焼土、木炭が一面に広がっていたが火災を受けたか否か定かではない。遺構としては、柱穴・石囲炉址・貯水穴・方形竪穴・遺物の東石等や排水のため作られた石並による暗きょ排水が4か所検出されている。

柱穴は約300発見されたが、複雑な配置のため、少なくとも数回の建替えは予想されるものの、建造物の形態等の分析は今後の課題となっている。この他、南側の調査区に数か所鍛冶屋場と推定される遺構が検出

中央自動車道長野線内遺跡調査速報

塩尻市 上木戸遺跡

調査研究員 唐木 孝雄

塩尻市から松本市にかけて筑摩山地の西麓に発達した西に緩く傾斜する丘陵は、この地方でも特に遺跡の分布密度が高い地域である。上木戸遺跡はその丘陵が西を田川に、東と北を大沢川に開析されてできた台地の先端部に立地する。地籍は塩尻市大字片丘字南熊井である。

上木戸遺跡は以前より縄文時代中期及び弥生時代後期の遺跡として知られており、調査前にも多量の遺物が表面採取できた。

調査は中央道長野線の用地にかかる遺跡の東側部分3,250㎡のうち残件を除いた2,750㎡を対象に、6月7日から8月30日までほぼ3か月にわたって行った。その結果30軒の住居址を含む遺構が検出され、縄文時代から弥生時代、そして平安時代にかけてここに集落の営まれていたことが確認できた。

縄文時代の遺構は全て中期に属するもので、住居址は井戸尻期のもの2軒、曽利期のもの12軒である。このほか土壇40余基がある。このうち注目すべきは硬玉製垂飾り5個を出土した29号土壇である。他にこのような遺物を出土した土壇はなく、また台地の縁辺に分布し円形プランを呈する他の土壇に対して、29号土壇は台地の中央寄りに位置し楕円形プラン(1.4×0.9m)



天目茶碗

されている。

出土遺物は13～14世紀の中国青磁、14～15世紀代の天目茶碗と灰釉・鉄釉陶器、常滑産の甕・卸皿・仏花瓶・大平鉢など15世紀代の遺物と、一部古い志野茶碗が発見されている。江戸時代から明治・大正頃のものもあるが、城跡関係は戦国時代以前までであることが確認されている。

文献上からの考証のみでなく、豊富な出土遺物の上からも、大草城が戦国期に廃城したことを証明する結果を得たことは大きな成果といえよう。

を有する点でも特異な存在であるといえよう。なお5個の垂れ飾りは長さ3～5cmと小形で、楔形に近い長楕円形をし、

単孔であり、概ね3個と2個の2群にまとまってほぼ同一レベルから出土した。

なお、復元可能なものを含めて多数の縄文中期土器があるが、わけても図示した土器は最優品の1つである。台部全体と把手の先端をわずかに欠損するが、本体はほぼ完全である。その精巧な造形には驚嘆する。

弥生時代の遺構は、南地区の全域にわたって検出された住居址15軒と溝状遺構2基がある。住居址はその形態や付属施設の違いから大別して、小型で隅丸長方形4本柱に地床炉又は埋襲炉を持つ類と、大型で隅丸長方形6本柱にコの字形石囲炉を持つ類とがある。後者の中には複数の石囲炉を持ったり、石囲炉のほかにも埋襲炉や地床炉を持つ例もあり、また床面から土器製作用と思われる粘土塊の出土した例が2例ある。

溝状遺構の1号は南地区、2号は北地区に検出された。最大幅こそ1号2m、2号3.5mと異なるものの、断面V字形で深さが2mを越えていること、自然埋没していること、最下層に砂利層があること、弥生土器



渦巻把手付土器



上木戸遺跡南調査区環境

が流れ込みの状態が多量に出土すること等共通点が多い。長い方の1号でも30m程を調査できたにすぎないので全容は不明であるが、1号は南から見てわずかながら左にカーブしていることから環濠の可能性も否定

奈文研研修報告

1 写真測量課程

調査研究員 田中 正治郎

4月18日から27日まで奈文研の専門研修「写真測量課程」に参加した。内容は写真測量の原理から測量用カメラを用いた撮影実習、図化機による図化実習まで、一応写真測量の全過程を含み、非常に有意義なものであった。

写真測量は忠実性、均一性などの点で優れており、特に能率の点では平板測量、遣り方測量等とは比較にならない高能率があげられることが最大のメリットである。原理的にはいわゆるステレオ写真を応用したもので、単に遺構の形態を忠実に図化するばかりでなく、検出面に等高線を記入したり、遺構の深さなどを記入することもできる。また、全体写真、全体図も同時に出来あがる。しかし、写真上に写らない部分については後から補足しなければならないし、写真測量の技術者は本来地形図等の作成が業務であるため、遺構などを的確に表現、図化するためには業者と密接に連絡をとりあわねばならない。写真測量の適応範囲を広げる努力はなされているものの、必要コスト、日数等を考慮すると遣り方測量の方が有利な場合もある。

文字通り写真から図を起こすため、大きく引き伸ばせば大縮尺図を作成することも可能だが、精度その他の問題から仕上がり縮尺と写真縮尺の比は1対5～8くらい、つまり仕上がり1/100ならば写真は1/500～1/800となる。

できない。

これらの遺構からは大量の土器が出土している。その中心は在地化した後期箱清水式とみられるが、中島式の影響を強く受けた土器や東海系の土器、また一般に近江系と呼ばれている土器なども混入している。伴出遺物に磨製石庖丁、石製紡錘車、砥石などがある。この時期の調査例に乏しい当地方にとって、これらは貴重な資料となるであろう。

平安時代の住居址は1軒が台地縁辺近くに検出された。一辺4m弱の方形プランで北側にカマドをもち、土師器・須恵器の他、南東隅より編物石と思われる長さ10cm程の細長い礫が10個余りかたまっている。

以上、調査の概略を紹介したが、まだ全く遺物整理に手をつけていない段階であり、詳細な検討は後日にゆずりたい。

一般的な1/20図を作ろうとすれば1/100～1/160の写真が必要となるが、測量用カメラの焦点距離は15cmくらいなので、 $0.15 \times 160 = 24$ 、すなわち高度24mぐらいから撮影しなければならない。したがって飛行機では不可能であり、気球やクレーン、ヘリコプターなどで撮影することになる。気球は風に弱く、風速5～6mが限度であり、クレーンは約30tの自重に耐える幅8m以上の余地が必要となる。ヘリコプターは最も確実であるが割高なのが欠点である。

費用の点ではヘリコプターで撮影して1/50図を作る場合、1㎡当たり700円ぐらいが平均的と言われる。また納品までに1～2か月を要する。

最近一般の35mmカメラによる写真測量も行われており、奈文研でもこの方法を検討中とのことであった。なお、写真測量の詳細については奈文研発行の「文化財の写真測量」を参照されたい。

2 石造物調査課程

調査研究員 百瀬 久雄

本年6月4日から6日までの3日間、特別研修「石造物調査課程」に参加した。内容は藤沢一夫氏の石造物概説、水野正好氏の中近世の墓標、藤沢典彦氏・上原真人氏による石造物の実測と拓本実習であった。

石造物は五輪塔や宝篋印塔等があり、一般的には石造美術と呼ばれるように、文化財というよりは美術品として見られ扱われてきた。当然、石造物に対しては珍しいもの、美術的に価値あるものが注意され研究の

対象となってきた。

ところが最近、奈良大学の水野正好氏らによって、石造物は文化財であるとの立場から、これまで石造美術では扱ってこなかった、墓地にある数多くの石塔(墓標)も研究の対象とするようになった。墓標の研究では、昭和14年坪井良平氏の「山城木津惣墓墓標の研究」が最初のものとして知られている。坪井氏は3000基を超す墓標を調査し、型式分類し、そして供養年月からその型式変遷を明らかにした。歴史上名も無き庶民の墓を調査し、考古学的研究方法の対象にしたのは当時として画期的な出来事であった。しかし、この研究以後、最近に至るまで庶民の墓が研究の対象とされることはなかった。水野氏らは坪井氏の木津惣墓研究の成果を採り入れて、元興寺極楽坊出土の墓標を分類しそこでの型式変遷を明らかにした。木津惣墓での墓標の変遷は、それが発表された時には他に研究例がなかったので、他の地域でも一般的にみられるのか、その地域だけの特色なのか明らかにし得なかった。ここに元興寺での変遷が示され、山城国と大和国の異なる地域の比較が可能となった。これ以後、水野氏は研究室の学生等を指導して、いくつかの墓地を調査して事例の増加に努めている。

こうして、いくつかの墓地で墓標の変遷が明らかにされ、地域を超えた普遍的なもの、地域色とが指摘できるようになった。前者には墓標の型式変遷や戒名の流行をあげることができる。つまり墓標は、五輪塔を刻んだ板碑→戒名を刻んだ板碑→方柱状石塔という変遷をたどり、戒名は時代の下降と共に字数が増加するといったことである。後者には墓標に使用される石材や被葬者の性別比があげられる。奈良の東にある春日山より安山岩が産出するので、元興寺極楽坊では石材の中に占める安山岩の割合が高い。山城国木津惣墓

や大和国興山往生院のような農村部では男女の比に違いはないが、都市部の元興寺では女子の占める割合が男子よりも高い。

さて墓地の形成過程が明らかになると、その墓地を営んだ集落の社会情勢がそこに反映されていると指摘されるようになった。最初は墓標としての五輪塔が1基、墓地の中央に建てられ、そのうち集落の中の有力者によって個人の石塔が建てられはじめ、それが一般化するという過程をたどる。これは中世から近世にかけての集落構造の変化に対応するものとされている。

このように中近世の墓地の内容は墓標を通して解明されつつあるけれど、墓地はひとつの集落や複数の集落の共同墓地として営まれたりするため、個別の家のことまで明らかにするのは困難である。各家の段階まで研究を進めていくためには、どの家がどの墓を営んだのか明らかな事例がなくはいけない。ところが奈良県米谷墓地は、近世以来現在まで各家毎に墓地を営み何々家の墓はどれなのか判かる好例である。その墓地が整理の対象となり、石塔が移動されることになって調査された。そして、被葬者の変遷より、ある家が分家したことや、同一の家でも場所を変えて墓地を営んだ等のことが明らかとなり、家の歴史まで知ることが可能となった。この墓地の場合、調査の成果が整理段階にあるため、今後様々なことが明らかにされるものと期待されている。

以上最近の中近世の墓標に関しての研究動向を水野氏の講義を通して紹介した。

水野氏が最後に提言したように、土器・石器といった遺物のみでなく、こうした周辺にある石造物の研究や分析を通じて、より人間味ある地域史の再発掘ができるのだと痛感した。

長野県内調査報告書紹介 (その1)

◆横沢遺跡群Ⅲー横沢地区は場整備に伴う発掘調査報告書 更埴市遺跡調査会・更埴市教委 (昭和60年3月ー以下60ー3とす) (B5 版本文17頁図版3 頁付図1ー以下B5 17+3+①とす) <近世棚田など>

◆森將軍塚古墳ー保存整備事業第4年次発掘調査概報 更埴市教委 (60ー3) (A4 34+18) <墳丘構造・埴輪配列など>

◆旗塚遺跡ー旗塚遺跡緊急発掘調査報告書 豊野町教委 (60ー3) (B5 24+8) <4地区の旗塚調査>

◆石川条里的遺構 (3) (付・上駒沢遺跡) 長野市遺跡

調査会 (60ー2) (B5 32+16) <平安時代の61か所にわたる畦畔検出による埋没水田調査>

◆宮反ー宮反遺跡緊急発掘調査報告書 中野市教委 (60ー3) (B5 45+8) <縄文～平安、平安住居や鍛冶址>

◆上林中道南遺跡ー団体営圃場整備事業用地内埋蔵文化財緊急発掘調査報告書 山ノ内町教委 (60ー3) (B5 55+12) <縄文草・早・前期土器、平安住1>

◆長者清水・水の沢遺跡ー昭和59年度県営圃場整備事業温井地区発掘調査報告 (市埋文調査報告11集) 飯山市教委 (60ー3) (A4 71+19) <中世珠洲系陶器もつ土壇、建物址など>

◆北原遺跡Ⅳ—長野県飯山市旭町遺跡群（同上12集）
飯山市教委（60-6）（B 574+12）＜弥生中期，平安の
鍛冶址など＞

◆岡ノ峰—岡ノ峯遺跡第2・3次発掘調査報告書 野
沢温泉村教委（60-3）（B 5194 + 8）＜縄文後晩期の
石棺墓群＞

◆小山遺跡—駒ヶ根東部土地改良区下間地区県営ほ場
整備事業（昭和59年度分）埋蔵文化財緊急発掘調査報告
書（発掘調査報告書第19集） 駒ヶ根市教委・南信土
地改良事務所（60-3）（A 472+20）＜建物址30棟を中
心とした中世遺跡＞

◆野火付遺跡（鋳師屋遺跡群）—長野県北佐久郡御代
田町野火付遺跡発掘調査報告書 御代田町教委（60-
3）（B 5161 +39）＜奈良平安の住居址ほか埋葬馬5頭
が出土＞

◆宮平遺跡（遺構篇）—長野県北佐久郡御代田町宮平
遺跡発掘調査報告書 御代田町教委（60-3）（B 526+
42）＜縄文中～後期住27軒などの分布確認調査＞

◆市の町・塩川条里的遺構遺跡—長野県小県郡丸子町
市の町・塩川条里的遺構遺跡発掘調査報告書 長野県
東信土地改良事務所・小県郡丸子町教委（60-3）（B
573+26）＜縄文—中世にわたる複合遺跡＞

◆望月城跡—緊急調査報告書（望月町文化財報告第15

集）望月町教委（60-3）（B 522+8）＜測量調査を主
とした中世城跡＞

◆原田遺跡—長野県上田市原田遺跡発掘調査報告書
（市文化財調査報告第23集） 上田市教委（60-3）
（B 543+17）＜弥生～平安の小規模遺跡＞

◆染屋台条里水田跡遺跡調査概報・創置の信濃国府跡
推定地確認調査概報Ⅲ（上田市文化財調査報告書第24集）
上田市教委（60-3）（B 550+9）＜条里・国府とも
明確な遺構検出はなし＞

◆不動坂遺跡群・上の原遺跡群・古屋敷遺跡群—緊急
発掘調査報告書 東部町教委・東信土地改良事務所
（60-3）（B 5119 +21）＜先土器～平安の7遺跡の調
査と後期古墳1基の発掘＞

◆成立遺跡—範囲確認調査報告書 東部町教委（60-
3）（B 576+16）＜国史跡成立遺跡周辺の範囲確認調
査で縄文中期末～後期住居址など検出＞

◆宮ノ反—長野県小諸市宮ノ反遺跡発掘調査報告書
（同市埋文報告9集） 小諸市教委（60-3）（B 558+
24）＜住居址10・建物址を伴う古墳～平安集落址＞

◆矢島城跡—緊急発掘報告書（同村文化財報告2集）
浅科村教委（60-3）（B 526+4）＜トレンチによる掘
跡の確認など＞

（以下次号へ）

埋文センター人事異動（昭和60年7月以降）

転出

山崎昭三事務局長（県総務部付へ，7月4日付）

転入

西沢宣利事務局長（県土木部都市下水道課課長補
佐から，7月4日付）

新任（調査研究員）

伊藤友久、上田典夫、寺内隆夫、野村一寿（以上8
月1日付） 綿田弘実（8月7日付） 岡村秀雄、
河西克造、近藤尚義（8月12日付） 寺島俊郎（8
月19日付） 大竹憲昭、宇賀神誠司、百瀬忠幸（9
月2日付）

埋文センター日誌抄（昭和60年7月以降）

7月1日 塩尻市教育会社会科委員会50名視察
9日 松本市島立地区（南栗遺跡）発掘開始
10日 吉田向井地区埋文調査説明会
17日 毛涯副知事センター及び発掘現場視察
23日 吉村知事テレビ県民室ビデオ収録のため吉
田川西遺跡及びセンター視察激励

8月6日 NHK吉田川西遺跡及びセンター取材
8日 ブラントオパール分析サンプル再採取指導
藤原先生（宮崎大 10日まで）
12日 上木戸遺跡（塩尻市南熊井）現地説明会
参加者250名
23日 県教委塚原教育次長センター及び発掘現場
視察
26日 テレビ松本 センター及び発掘現場取材
9月2日 県教委佐々木義務教育課長・小出高校教育
課長センター及び発掘現場視察
4日 埋文調査調整会議（公団、高速道局、文化
課、埋文センター）
8日 下神遺跡（松本市神林）現地説明会 参加
者350名
9日 塩尻市北熊井地区（千本原遺跡）埋文調査
説明会
12日 県教育委員4名センター及び発掘現場視察
13日 松本教育事務所管内市町村社会教育主事吉
田川西遺跡視察
24日 松本市議会議員北栗遺跡視察